

# ストップ イノシシ急増

## 里山衰退＝野山の生物が人里へ接近



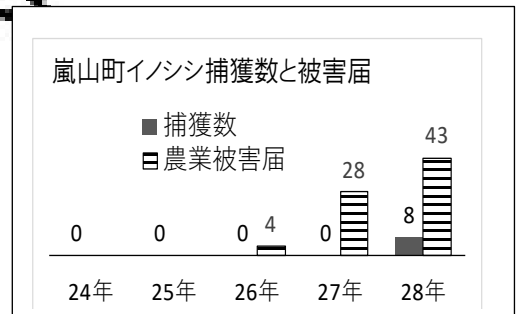
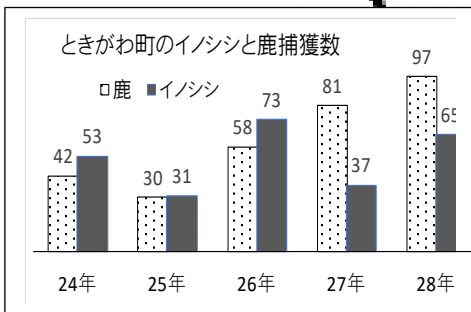
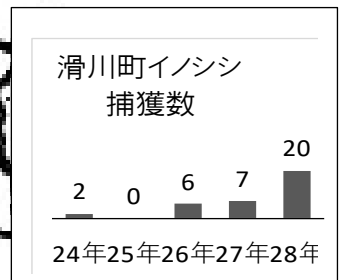
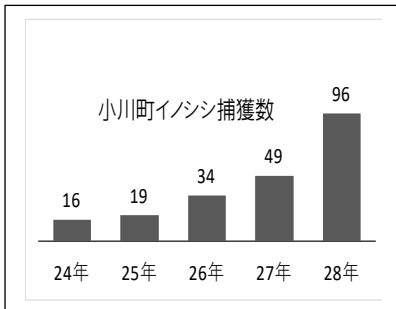
### 嵐山町でも、イノシシ急増

- 比企丘陵はイノシシや鹿という野山の動物には住みやすいと猪博士仲谷淳さんの話です。
- イノシシは1年に5～6頭の子どもを産みます。そのうち成長するのは1年間に2,3頭。
- こどものイノシシが1頭いるとそばには母親・兄弟がいます。周囲に3～4頭はいます。
- ウリボウという子どもの猪。被害届も増加。

### 嵐山町は28年度イノシシを8頭捕獲。

- H28年度2016年はウリボウ8頭＝8家族で、24頭は生息しています。1年間で2倍増えると10年間で1024倍です。イノシシの寿命は10年。10年後2026年は約2万4600頭になります。
- イノシシが多い小川町・鹿も多いときがわ川町のように、被害が進むと深刻になります。

2頭	1年後	2年後	3年後	4年後	5年後	6年後	7年後	8年後	9年後	10年後
頭	4頭	8頭	16頭	32頭	64頭	128頭	256頭	512頭	1024頭	2048頭



### なぜ、イノシシが急にふえたのか。

- 田畑里山から人の姿が消えました。里の営みと山のつながりが消え、山からイノシシたちが現れるようになりました。
- 今、全国で1年間に30万頭～40万頭のイノシシが殺されます。

### 里山の営みを大切にして、

- イノシシに人間社会から離れてもらう・・・
- 田畑や山をしっかりと利用できる場所を見定めて、人はそこを守る。野性動物の本来の場所で、人が守り切れなくなった場所は、野生生物に返し、猪の世界と人間社会を守りましょう

